

# 令和5年度 第5回恵那市社会教育委員会議事録

開催日時：令和6年1月23日（水）

午後1時30分～3時15分

開催場所：恵那市役所本庁舎 第2委員会室

---

1. 開会あいさつ
2. 答申書の提出  
「恵那市における地域学校協働活動の推進について」
3. 社会教育委員長あいさつ
4. 教育長あいさつ
5. 答申について懇談
6. 議題
  - (1) 令和5年度第4回社会教育委員会会議録の承認について
  - (2) 家庭教育支援計画事業（選択と集中する事業と、焦点化する取り組み）の検証まとめ
7. その他
8. 閉会あいさつ

## 次回日程

日時：令和6年3月21日（木）午後3時～

場所：恵那市役所西庁舎3階 災害対策室A・B

・出席者の数：社会教育委員 14 人中 12 人、事務局 5 人（以下のとおり）

	役職	氏名	選出団体等	出欠
1	委員長	林 達夫	三学のまち推進委員会委員	出席
2	副委員長	山田 恵市	文化振興会	出席
3	委員	山内 正一	学識経験者	出席
4	委員	高草 環	図書館サポーターえな	出席
5	委員	相原 正文	恵那市青少年育成市民会議	出席
6	委員	森川 伸江	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
7	委員	柘植 俊夫	民生委員児童委員協議会	出席
8	委員	小林 英文	壮健クラブ連合会	出席
9	委員	百松 義朗	NPOまちづくり団体	出席
10	委員	田口 容子	放課後子ども教室コーディネーター	出席
11	委員	各務 周和子	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
12	委員	山口 清季	恵那ライオンズクラブ	欠席
13	委員	阪上 美代子	恵那市スポーツ推進委員連絡協議会	出席
14	委員	吉村 良	校長会代表（大井小学校長）	欠席

#### 事務局

1	教育長	岡田 庄二	恵那市教育委員会	出席
2	課長	柄澤 史枝	生涯学習課	出席
3	課長補佐兼係長	伊東 将昭	〃	出席
4	主査	今井 ちえこ	〃	出席
5	社会教育指導員	三宅 勝義	〃	出席
6	社会教育指導員	丸山 真理子	〃	欠席
7	社会教育指導員	太田 礼子	〃	欠席

#### 1. 開会あいさつ

（事務局）皆さま、こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。それでは、定刻となりましたので、これより令和5年度第5回恵那市社会教育委員会を開催させていただきます。本日は雪がちらつく大変寒い中ご出席を賜りましてありがとうございます。お手元の次第に沿ってすすめてまいります。

資料の確認をさせていただきます。お手元をご覧ください。はじめに令和5年度第5回恵那市社会教育委員会ということで、本日の会議次第が載った資料がございます。順番にホチキス止めで地域学校協働活動のQ&Aの修正内容ということで資料をお配りしております。また、人権同和講演会、地域学校協働活動フォーラムにつきましてはその他のところでご案内させていただきます。そしてその隣に地域学校協働活動の推進についてということで答申一式の資料がございます。最初の鑑文書、その次に答申の本文、そして別紙資料ということで三部からなる構成になっておりますのでよろしくお願

いたします。

それでは次第に沿ってまいります。最初に答申書の提出ということで、事務局から本件の諮問から答申までの経過説明を行います。

1年前、教育委員会から恵那市における地域学校協働活動の推進について諮問がありました。その諮問に沿いまして皆様には1年かけて答申案を作成していただきました。答申案の作成については、グループ討議、小委員会での原案の作成・編集、全体会議などで何度も検討してまいりました。またその間に地域学校協働活動推進委員さんへの意見聴取、地域自治区の会議での意見聴取などを行い、より多くの方々の考えを大切にしたい答申書の作成を進めていただきました。そして本日、答申書を教育委員会へご提出していただくということとなりました。経緯の内容につきましては、令和3年度から地域学校協働活動は恵那市全域で導入され、各地域で実践されてきました。導入後2年経ったところで調査したところ各地域さまざまな特色に応じた活動がなされており、多くの成果が出ていました。その一方で、組織の在り方や推進委員の役割などの具体的などころがはっきりしていないのではないかと課題も浮き彫りになってきており、教育委員会から調査研究を続けている恵那市社会教育委員会へ諮問をしたということでございます。また、地域学校協働活動の運営委員会ということで社会教育委員会は位置付けられておりますので、それも含めて諮問させていただいたということでございます。1年間かけて様々なご意見をいただき、答申書を作成いただきました。これより、林社会教育委員長から岡田教育長へ答申書をお渡しいただきます。両名はその場でご起立し向かい合ってください。社会教育委員の皆さまも恐れ入りますがその場でご起立し、両名にご注目ください。林委員長よろしく申し上げます。

## 2. 答申書の提出

(委員長) 事務局から答申についての経緯については説明がありましたので省かせていただきますが、これは現場で実践しながら、同じく携わってきた方々が悩みながら文科省の言う通りやっていると上手くいかない点もいっぱいあり、悩んでいました。ちょうどその時教育委員会から諮問があり、これ幸いということで自分たちも学びながら、いろんな意見を聞きながら、やっと答申書ができたということでございます。これは、これで完全に終わりということではなくて、まだ続くということで、実践しながらまた改善していくというような進め方で行きたいと思っておりますので、来年も続けて実情はどうかということについて情報交換しながら少しずつ改善をしていきたいと思っております。それでは、教育長さんに答申書をお渡ししますので願います。鑑と答申書です。よろしくお願いたします。

(事務局) ありがとうございます。御着席ください。ただいま、林社会教育委員長から岡田教育長へ答申書をご提出いただきました。これを受けまして、ここで林委員長から答申書に込めた思いですとか願い、そういったものを含めましてご挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

## 3. 社会教育委員長あいさつ

(委員長) 今年は、正月元旦から大きな自然災害、そして羽田空港での飛行機事故と、色々大きなことがあって、今もまだ完全に北陸の皆さんが大変な目にあっておられます。私たちは、亡くなられた方や災害に遭われた方に対して心を痛めている所でございます。私たちは、北陸の方たちに捧げるという意味でもさらに私たちが頑張るということが大切なことではないかなと思いますので、これからも社会教育委員の一人一人が頑張って活動していきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。それからまだインフルエンザ、コロナがどんどん、どんどん流行っています。治ったと思うとまた流行してくるという繰り返しですので、自分たちが少しでも自己管理をしながらかからないようにしていきたいと思ひます。今、小学生中学生の患者が非常に多いそうです。何とか、お孫さんがいるところはお孫さんからもらわないように、手洗いうがい、あとは体を休める、温めることが大事だと言われておりますので、自己管理で健康管理をよろしくお願ひいたします。それでは2つ目ですけれど、答申書を今教育長さんにお渡ししましたが、私は答申書に関わるのは2回目ですけれど、Q&Aを作ったのは初めてです。皆さんから大変良い意見がどんどん出て、疑問点とか出て、これはそのまま残しておかないともったいないということで、その疑問点はQ&Aにまとめれば、誰かが説明するときにも役に立つのではないかなということでもまとめていきました。答申書が教育委員会で通ればそれぞれの小中学校、そして地域学校協働活動推進員さんに対して具体的な説明がされると思ひますけれど、そこでも役に立つのではないかなと思ひます。また、やりながらさっきも言いましたが、実践をしながら矛盾点とか、ここがわからないということがありましたら、情報をしっかりとっていただいて、来年も続けて情報経過だけはしていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。本日は、一番大きな答申書を教育長さんにお渡ししましたので、またじっくり教育委員会の方で検討をいただいて、よろしくお願ひいたします。皆さん、ありがとうございました。失礼します。

(事務局) はい、ありがとうございました。それでは続きまして、先ほど答申書を受け取りました岡田教育長から、皆様にあいさつを申し上げます。よろしくお願ひいたします。

#### 4. 教育長あいさつ

(教育長) みなさんこんにちは。ちょっと私ものどが弱いのか毎年この時期声が出なくなり1ヶ月くらいこんな状況なので申し訳ありません。熱はありませんし、検査しても何も出てきませんので咳だけ出たら申し訳ないですけどよろしくお願ひします。まず昨年度のこの会で確か諮問をさせていただいたと思ひます。1年間かけて、今日の会を除けば6回くらいですよ、ここでやっていただいて、今日答申書をいただきました。本当にありがとうございました。私も諮問、答申というのが、法的にきちっとしたものと、ご意見を広くいただいてそれをこれからの教育委員会の施策に反映させるという、どちらかという今回の答申は広く意見を出されたものを尊重させていただいて、施策に反映させていただきます。来週定例の教育委員会がございまして、報告をさせていただいて、この考えを尊重し、さらにプラスアルファができれば、していきながら進めていきたいと思ひます。担当の方からも、答申ができていくにしたがって、特徴って

どんなのとかいろいろ話を聞きながら、それから今日の鑑文をちょっとさわりの項目を見させていただく中で、地域学校協働活動の願いやポイントが整理されていて、とくに推進員さんの役割ですね、やっぱりどこも何をやっていいのかとか、不明瞭不明確なところがあつたと思うんですけど、明確に整理していただきました。そして、協働本部の組織構成とか運営も明確にして役割分担を、きっちりしていただいたのは本当にありがたいことだと思っています。また、事業がさらに持続して発展していくための提案というようなものもいただいているということです。またゆっくり、じっくり読ませていただいて、今後活かさせていただきたいと思っておりますけれども、やっぱり地域の将来を担う人材の育成をはかるということが大きな狙いがあります。それから、学校を核にした地域づくりを推進することで、地域の創生につながっていけば本当にありがたいなと思っておりますし、そんなことを期待している地域学校協働活動でございます。これからも、やっぱり、東京は東京、岐阜は岐阜、恵那は恵那の形があると思っておりますので、それを模索しながらも、一步ずつ、確実に歩みを進めていきたいということをお思っておりますので、今後ともご協力よろしくお願いたします。本日は本当にありがとうございました。

(事務局) ありがとうございます。事務局としましても、この1年間、みなさまに貴重なご意見をたくさんいただきまして、答申書を本日提出いただいたということに感謝申し上げます。昨年度からのことですので、昨年度の委員さんの多少の入れ替わりもありますけれども、前年度からの委員さんも含めまして、感謝申し上げたいと思います。それでは、事務局の方から、先ほど教育長からお話もありましたが、今後の流れをお伝えしたいと思います。次第の4ページをご覧くださいと思います。こちらにスケジュールということで、1枚目は1年前の諮問の時から載せておりますけれども、本日は白くなったところでございますけれども、1月23日第5回社会教育委員会ということで、教育委員会へ答申書の提出をいただきました。これを受けまして、1月31日に教育委員会の定例会がございまして、こちらで答申書を議題として出させていただきます、審議いただくという形になります。前回までの委員会では2月の教育委員会というように予定しておりましたけれども1月の定例会の日程が変更になった関係で1月の定例会に提出ができるようになりましたのでこちらで審議いただくということでございます。また2月には、地域学校協働活動実績報告ということで、毎年冊子として製本しますが、これを2月中にすすめていきたいと思っております。時期を合わせまして、2月、3月の段階で答申書の周知ということで、実績報告ができ次第になるかと思っておりますが、こちらとともに周知をしていきたい、校長会ですとか教頭会、地域自治区会長会議、地域学校協働活動の推進協議会という場がございまして、そちらで答申書の説明と周知をおこなっていききたいと思います。これを受けまして、令和6年度から早速各地域の事業へ活かしていただくというような進め方を予定しております。3月下旬には第6回の社会教育委員会ということで、またこの会の最後に申し上げますけれども、第6回を開く予定としておりますのでお願いします。

もうひとつ、資料として、ホチキス止めで修正内容ということで、Q&Aの抜粋にな

りますが、こちらも配らせていただきました。前回の委員会から、その後のご意見をいただき、Q&Aの修正が生じました。本日の会議案内を郵送する際に合わせて修正をお伝えして、ご意見があればということで書面で依頼・確認させていただきました。それを受けまして、先週までに、出された意見を踏まえまして、小委員会の皆さまには、また再度最終的な確認を直接お伝えしました。その承認の上で、本日赤字になっているところがQ&Aで追加になった項目で、組織図が載っておりますけれども、中野方のまちづくり連絡会の組織図が現在の体制、最新版のものをいただきましたので、そちらに差し替えていますので、ご承知おきをお願いします。次第の5番に答申について懇談とさせていただきますけれども、答申書を1年間にわたって作ってもらいましたので、せっかくの機会ですので、各委員さんからこの答申書への思いですとか願い、今後の活用についての期待、そういったものを、一言ずついただければと思います。全員からいただければと思います。

(委員) 途中からこの委員会に入らせていただきましたので、前後の所がよくわからないのですが、皆さんよくこれだけのものにしたなという、なんだか他人事のように言っておりますけれども、私の住んでいる所は学校には遠くてあまり学校というものに馴染みがないんですね。ましてやここで生まれ育った者でもないもので、本当に学校がすごく遠くて、今でもそんなに学校の人と、まず小学生というか中学生の方と出会うことがなかなかないんですけども、わたしは図書館サポーター恵那をしていますので、そこで子どもさんたちが参加し、中高生のボランティアと一緒に行事をすることがありますが、元気に生き活きと活動しており、楽しみになっています。地域学校協働活動もボランティアということが出てくるとは思います、自分でやりたいという想いで来る人が多いので、本当に楽しく、一緒にいろんな事を考えてやっています。

(委員) 色々関わらせてもらいまして、自分が勉強できたと思います。想いとしては、地域づくりがゴールですので、「学校」とつくと、学校のお手伝いというイメージが強いですが、そうでなくて、自分たちの地域に住む人が生き活きと活動できる場になっていくといいなと希望しています。もう1点、色々意見を言いましたが、言いつ放しのものを事務局が上手にまとめていただいて、本当にすごい人たちが事務局にたくさん居たなと思えることができました。Q&Aというのもいいものだと思います。ありがとうございました。

(委員) 私も感謝の意で、事務局の方と歩んできたことを感謝申し上げます。このようなものができたこと、教育長さんからもありましたが、事業の発展、これからどうやって地域が学校とともに歩いていくのが大切になるとは思いますので、私もこれを活用しながら、自ら地元のまちづくりに関わっていきたくと思っています。本当にありがとうございました。

(委員) 私も同じくで、本当に自分が勉強させてもらいました。社会教育委員会でこの活動に取り組んだことによって、これから地域で自分ができること、見回りみたいな大それたことはできませんが、登下校で子どもを見かけるとあいさつはしていますが、これからも意識したり、夏休みのラジオ体操に参加したり、地域で何か自分ができること、小さなことでいいので、やっていくことで、この活動に参加できるとは思い、努力してい

きたいと思います。会議に出させてもらって、立場の違う方の意見を聞き、出会うことのなかった人たちと出会わせてもらったことに感謝して、また1年で立派な答申書の冊子を作っていただいたことに感謝しています。ありがとうございました。

(委員) 私は、諮問があった時には入院しており、最初の経過が分からなかったのですが、地域学校協働活動について、中を見させてもらって、こんなことをしているのか、こんなことをやっていくのか、と思いました。3日前に中野方かるた大会がありましたが、こども園、小学校、中学校、推進員がボランティアで参加していましたが、これが活動の中身なのだと思います。Q&Aがメインのような気がしますが、こんな風にやるのか、あんな風にやるのかとわかりやすくなっていると思います。1年間お疲れ様でした。

(委員) 昨年から社会教育委員会に参加させていただいております。まず、何もわからない私が、ここにいる素晴らしい方たちと一緒に勉強させてもらえたことをうれしく思います。昨年、武並のマレットゴルフ場がなくなると話を聞き、ねんりんピックも恵那市は武並がマレットゴルフ場を提供しなければいけないのに困ってしまいました。壮健クラブはテーマを2つ持って、マレットゴルフ場の存続と武並町の壮健クラブの位置づけを連合会長と武並の渡辺さんと話し合いました。私も口ばかりで態度で示していないのがいけないと思い、これからは積極的に地域の活動に溶け込んでみんなと一緒に頑張りたいと思います。最近思うのは、壮健クラブではどんどをします。子どもたちと正月4日に門松を集めて、どんど場へ持っていき、竹を切って、藁を巻いて、火を付けて、神官さんが祝詞をあげて。どんどは子ども会がやっていますが、婿が子ども会の会長なのでこれからどうするか話をしたら、少子化が問題と言います。子どもがいないので、これから子ども会と自治会と一緒にやっていくかが課題だと。今年から自治会主体でやりました。独身はいても子どもがいない。残念です。ラジオ体操も人数が少なく隣の地区とやったりしますが、年寄りも一緒にやろうと。今回の答申書を地域で広めていくのが私の役目かと思っています。長くなりましたが、ありがとうございました。

(委員) 初めて社会教育委員に任命いただき、地域学校協働活動推進員もやらせていただき、どちらも入ってから役割が分かってくるということで、意見を申し上げるより役割を認識するのに時間がかかってしまいました。一方で、多様な見方、意見があるなど感じ、まとめていくのも大変な作業ですが、その中であたらしいアイデアや考え方が生まれ、大変すばらしい過程だったと思いました。いいものを作っていただき、Q&Aでは素朴な疑問に答える形で、答申以上に中身のいいものができたのではと思います。

(委員) 答申書だけでなく、Q&Aが見やすく、自分が疑問に思っていることをピンポイントで探せるので、とてもいいなと思いました。いろんな役をやっていますが、子どもが成長していく過程で地域とどれだけ関りが持てるかが大事だと思っていて、なかなか親の立場では顔を出さない方も多いんですが、本当は保護者が学校に出て子どものために色々動いてくれるのが一番いいと思いますが、そういうわけにもいかないので、できる方ができることをちょっとずつやっていくのがいいのかなと思います。きっかけがないだけで、できる方もいっぱいいると思うので。そのきっかけを作れるといいなと思います。

(委員) 今まで学校とかには人に誘われて関わってきましたが、この会議に出て、それでよかったんだな、これからもやっていけばいいんだなとわかりました。答申書をまとめていただいてありがとうございました。

(委員) 一部の子どもたちとの関りはあり、そこから学校が今どんな状況か聞いてはいました。実際学校と関わることはありませんでした。例えば、学校の体育館を借りたいという時に、昔は学校に行って先生に頼むという形でしたが、今は電話をしてもアポありますか？と聞かれ、電話してはいけなかったかな？という気持ちになりました。そういうこともあり、学校へ行くことが緊張しましたが、ここで勉強させていただいて、皆さんの話を聞いて、今関わっている育成会の親にもどういう風だと聞いたり話したりしたいと思うようになりました。Q&Aは読んで自分の勉強になりましたので、これはありがとうございました。

(副委員長) 今日、教育長さんに答申書をお渡しすることができて、さて、今後見ていく、見届けていく、改善していく、この後のことを考えると具体的に、例えば恵那市全域に配置されている三学の塾長、その上司である振興事務所長、地域協議会の会長、校長にこれを見てもらおうと、多面的に多角的に調査研究が進んで、今後さらに改訂していくといいと思います。

(課長) 約1年かけて皆さんにご検討いただき、毎回、熱心に、大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。地域学校協働活動は学校と連携して進めていく中で、地域から出てきていただいた皆さんの力を、地域住民がより多くかかわっていただくために、これからも力を貸していただきたいと思います。ここで教育長ですが、公務の為退席させていただきます。

(教育長) ありがとうございました。お話を聞かせてもらって、私もよく思っているのですが、作るまでももちろん大事ですが、どちらかというと、作ってから。学校もそうなんですけど、作ってしまうと安心してもう終わりなんてことがあります。これからが大事かと思っていますので、引き続き色々なところからご意見いただいて、教育委員会もともに前に進んでいきたいと思っています。本日はありがとうございました。では、失礼します。

(事務局) ありがとうございました。委員の皆さまからご意見頂戴しまして、今後が大事ということをお願いいただきましたので、教育委員会として取り組んでいきたいと思っています。それでは、次第に沿って議題に入ります。ここからの進行は、林委員長にお任せします。よろしくお願いいたします。

(林委員長) 議題に入る前に、答申書は皆さんが意見をたくさん出していただいて、皆さん一人一人の力で作成したものです。私が強引に進めてしまいましたが、皆さんが文句も言わず、一生懸命協力していただいたおかげだと思っています。教育長さんが最後に言われましたが、これはひとまずの完成ということです。改善しながら継続していくと文書にも書いています。来年もひとつの議題として、研究の中身として、柱として続けていきますので、よろしくお願いいたします。また、この活動がいいなと思うのは、人の参加だと思います。ひとつの活動に地域の人が何人参加できたか、それで地域の活性化に繋がります。人をどう集めていくか、協力してもらおうか。笠置町では委員の人たちに

は人集めがひとつの役割として示してあります。参加すると喜びが味わえると誘い合っ  
て、参加人数である程度評価していけるのではないかなと思います。参加だけでなく、  
協力、アイデア出しなど発展はありますが、まずは参加が最初のステップかと思いま  
すので、皆さんもぜひ参加してもらえたらと思います。それから、家庭教育支援計画事  
業の中で、評価が大事、政策が大事ということで、こういう計画を立てたけれど、自分  
たちでどう評価しているか明確にして、1年後には感想など各地域で出せればと思っ  
ています。評価するという目を持って参加するといいと思います。よろしくお願いします。

## 6. 議題

### (1) 令和5年度第4回社会教育委員会会議録の承認について

(委員長) 事前に配られていますので、誤字脱字、表現のおかしい点など、終了後に事  
務局へお願いします。

### (2) 家庭教育支援計画事業（選択と集中する事業と、焦点化する取り組み）の検証ま とめ

(委員長) 事務局からお願いします。

(事務局) 資料5ページをご覧ください。前回の会議までに、選択と集中する事業と、  
焦点化する取り組みということで、柱1～4までご意見をいただきました。本日はいた  
だいたご意見をふりかえりということで、ご発言を基に、今後の課題や解決策をまと  
めました。こちらから柱1～4まで説明させていただき、後にそれを踏まえて、資料8ペ  
ージになりますが、全般的なご意見をいただいて、全体に反映させていきたいと思  
います。【資料読み上げ】

以上柱ごとにご意見をいただきました。また、その他全般的な意見等として、事務局  
からの意見で恐縮ではありますが、書かせていただきました。全般に渡りまして、さら  
なるご意見やご提案がありましたら頂戴したいと思います。委員長さんよろしくお願いします。

(委員長) 焦点化したまとめができています。それを各課で施策を自分たちで評価でき  
る施策が立てられているかどうか、そうでないとその施策が良かったのか悪かったのか  
がはっきりしてこないと思いますので、そこをそれぞれの課へどう伝えていくかが大事  
かと思います。家庭教育の支援の推進ということですので、この4つの柱を再度読み直  
していただき、ご意見ありましたらお願いします。順番にお願いします。

(委員) ここで出た意見がまとまっていいなと思いました。子育て支援と家庭教育  
がごちゃ混ぜになって、広がりすぎていないかなと感じなくもないです。今回はこれま  
での計画の検証なので、ここで議論したことがまとまっていいと思います。これか  
ら作る時は、考え方を整理してもらって、子育て支援も計画があるし、家庭教育は親を  
どうしていくかという視点が大事かなと思うので、その辺を含めて選択と集中をして  
けるといいかなと思います。

(委員) 領域が乳幼児からどこまでかということ、年代別で見ていくものなのか、スポー

ツのことも出てきますが、子どものための支援計画なので、柱4の関わり方ですが、時代の親の育成とあるわけですが、自分も大学生がどのように子どもたちと関わるか、高校生がどんなボランティア活動をするか、具体的に反映していけたらと思います。現時点では意見がまとまりませんが。

(委員長) 柱4は「親になるための」、「いい親になるための」どういう手立てをしたらいいかということかと思えます。職場体験も、社会人としてどうしていったらいいかなどつながっていくと思えます。最初、曖昧だったので戸惑われたかもしれませんが。

(委員) オールマイティーに拾ってあるので、これはこのままでいいと思えます。今後は子どもの成長をどこの時期に絞っていくかということ、そこに重点を置いてやっていってはどうかと思えます。どの時期に合わせるかということ、いろいろな意見があると思えますが、私個人としては乳幼児期がものすごく大事ではないかと思えます。今、せっかく講座や催しをしても参加する人が少ない。図書館の読み聞かせに行かせてもらっても、来る人は決まった人たち。世代的なこともあるし、昼間就労している親さんもいるし、事情はあるので。ただ、一番みんなを掴めるのは検診。検診は自由参加ではないので、100%ではないけれど出てきます。その時に、こども園での家庭教育学級は、親子で陶芸教室やお茶会、歯科指導などがあります。それで家庭教育が終わるという捉え方ではなくて、親の支援になっていかなければいけない。親が子育てにちょっと触れられるような。例えば、陶芸教室なら講師がいるので、担任の保育士は自分が主体でやらなくていいので、そんな時に、家庭教育につながるように子どもに接していけるように、保育士にやり方の支援をしていくというか、どうしたら家庭教育につながって行くかを伝えていかなければいけない。事業一覧で、陶芸教室、歯みがき指導、親子遠足、いくつもしましたというのではなく。事業一覧は必要ですが、その中でも今年はその事業について家庭教育で親たちに入り込んでいくところがないと、やって終わりになってしまうのはもったいないなと思えます。50年以上やっている家庭教育学級を各課の担当がどう捉えているのか。事業ではやっているが、困っている親、困っている子ども、その人たちのところに届くように、支援に活かしていくように、担当者の会を開いて思いを話してもらえるといいと思えます。園の家庭教育学級行事には、親も出てくるので、その機会を与えるのに意味があると思えます。どの時期にやるかも焦点化していくかと思えます。

(委員長) 全員に来てもらえないという課題に、どう働きかければいいのかというところ です。

(委員) この会に参加して、初めて家庭教育と聞いたように思えます。学校で教えることを家庭で教えなければならぬのか?と思いました。極端なことを言うと、しつけは家庭教育の範疇、学力は学校。家庭教育とはなんだ?ということがまだはっきりしていません。家庭教育学級はずっとやっていたということですが、参加したことも、見たこともないので、具体的に家庭教育の支援はどんなことをしたらいいのか、漠然としていてもいいですが、見えるようにしてほしいと思えます。また、放課後児童クラブと放課後子ども教室の違いもよくわかっていませんでした。

(委員長) 誰もが分かるようにというのは大事な視点だと思います。

(委員) 家庭教育は私もわかりません。我が家にはふたり婿がいますが、ひとりはおじいさんおばあさんと一緒に住んでいて、「ご飯は大事に食べる」とか「靴はしっかり並べる」とか、ことごとく言われてきたような感じです。もうひとは勉強は学校でやってきているけれど、家庭とか世の中からの教育という格段の差が出ています。おじいさんおばあさんがいた家庭と、両親だけで苦労してきた家庭では違うなと思うことがありました。うちに孫が3人いて、おばあさんがいろいろ言うわけです。ご飯の食べ方、マナーとか、ごはん茶碗を持つとか持たないとか。それが家庭教育なのか、一生懸命宿題をやっている私では教えられないので口を出しません、テレビを観ながらやっているのを叱っているのか悪いのかわかりません。5歳の孫がテレビで昔話を観ていて、「おじいちゃん、あるところってどこ？」と言うので、どう答えていいかわからず、今の子は違うなと思いました。6年生の孫が「タブレットはいらない。電気代がもったいない。なくても勉強できる」と言い、下の子は「あったほうがいい」と言う。いろんな見方があるなと思いました。ここにおられる方で、おじいさんおばあさんに育てられた人もいます。私もおじいさんおばあさんにこっぴどくしごかれてきましたけれど、そういうのは世の中で今、どんなんだろうなと思います。

(委員) 感想ですが、家庭教育はそもそも家庭でやられる教育であって、中身がよくわからないので示すといいと思うのですが、一方、公平に見たときにその世代に一番力を入れるのがいいのかどうか、また、当事者がそう思っているかどうか、違うのかもしれない。それをどう確かめたらいいか。当事者が分かったうえで、「もっとこうしてほしい」という意見が入るにはどうしたらいいのかわからなくなってきました。支援と言っている以上何か基があるわけです。

(委員長) 家庭できちとした教育方針があってやっているか、それが一番大事。それでは足りないので、祖父母が家にいない分、家庭教育学級でやろうという。学校教育とは違う、社会教育の一環としての家庭教育かなと思いました。

(委員) 難しいですね。幼稚園の時は家庭教育学級があって、お母さんたちが主体で、子どもたちに見せるために劇をやったり、卒園式のコサージュを作ったりしていました。柱1の乳幼児学級参加者が少ないというのも聞きますが、お母さんたちでサークルを作ったりして、その中で子どもを見合っただけ色々やっている所もあります。お母さんたちなりのルーツで集まったりしているので、それはそれでOK。けど、誰にも言い出せずに、困っていて、働いてもいなく、子どもとふたり家に籠っている家庭が一番心配なので、検診などで遠回しなアンケートなどで情報を得るような、それは難しいと思いますが。あと、学童と放課後子ども教室の一本化は、地域によってはOKなのかなと思います。担当課をまたぎますよね？学童は親が働いていて、その時間まで預かるというもので、放課後子ども教室は終わりの時間に親が迎えに来られるかがあります。今年は大井小、大井第二小ともに、子ども教室の半分は学童に入っている子で、だいぶ増えています。それでも一本化は難しそうです。小規模な学校ならできるかもしれません。

(委員長) 難しいですが、一本化した方がスムーズになりますよね。

(委員) スムーズにいくところと、人数が多くなりすぎて準備ができない、場所も難しい。スタッフも、学童の先生も一緒にということになってきます。それを月1回できる

かという、大変かと。年に何回か合同で遊ぼうというのはありだと思います。

(委員) 放課後児童クラブと学童、放課後子ども教室の違いはなんですか。

(委員) 放課後児童クラブと学童は同じものです。放課後子ども教室は生涯学習課管轄で、各小学校にあって、希望者が申込み、放課後に月1回1時間くらい異学年と遊ぶ活動です。学童は、親が働いていて、下校しても家に誰もいないので、学童へ行って勉強や友達と遊び、仕事が終わったら親が迎えに行くもので、毎日あります。

(委員) 学童はお金を出して預かってもらう、子ども教室は無料で誰でも参加できる。

(委員) 学童は子守りの感覚ですね。

(委員) 私など昔の考えだと、学童に預けずに夕方5時くらいに帰ってきて子どもを観たらどうかなと思ってしまいますが、5時~7時まで働く給料と学童へ払う月謝と比べるとどうなんだろうと。子どもたちがみんな学童学童というので、正直う~んと思います。

(委員) 小学校1, 2年生の学校が終わるのが2時~3時なので、それから親の仕事が終わる5時まで居る場所がないのであった方がいいですね。

(委員) 乳幼児学級の問題は昔から一緒に、出てきてほしい人にはなかなか出てきてもらえない。こども元気プラザにいましたが、出てきてほしい人の把握ができない。その問題はなかなか解決されないですね。また、保健センターで把握した情報を各所へ報告というのは、今、個人情報で難しいところがあって、連絡が取りにくいところで、どうにかならないかと。

(委員長) 情報の共有が一番大事ですが。

(委員) 家庭教育は、社会通念上の最低限の規則を守るようにしつけていくことが一番基かと思うので、先ほど何歳くらいと出ましたが、小学校低学年くらいまでには、善悪も、家庭環境の中で身につけば、小学校中学校でもそのまま伸びていくと思います。子どもの靴があちこちなっているのは、家庭環境にあるなど。その時注意しても、次の時にあちこち飛んでいたり。親から連絡した方がいいことも放っておいたり、全体でなく親たちの小さなグループができていたり、親へのしつけ、教育が不足していると思い、言いにくいことも言うようにしています。小さい頃から大学生になっても家庭が大事だなと思います。

(委員長) 私たちと若い人たちの価値感が違って、私たちがこういう風にしつけたいと思っても、若い親世代が何でそんなことしないといけないの? となります。三つ子の魂百までと言われるように、乳幼児期にきちんとやっておくとそれがずっと続いていく。私自身親からしつけられたことを今でも覚えています。もう少し、学校へ上がるまでを重要視してしつけられたらと思います。小学校には保護者から「あれもこれも学校でやってくれ」と要望がきます。箸の持ち方も教えてほしいとか。家でやらずに学校へ頼む親が増えているかもしれません。そこもどう整理していくか、別の柱でやっていけたらと思います。

(委員) この前、生涯学習課が実施した救命救急の行事に参加させていただきました。親が救命士から乳幼児の事故への対処法を学んだり、スマホで救急車を呼ぶ練習をしたり、身近に役立つ内容でした。土曜日開催だったので、夫婦で参加し、子どもはシルバー人

材センターが託児して、親が話を聞けるようになっていました。私はファミリーサポートセンターの宣伝をしてきました。家庭教育学級は学校のイメージかもしれませんが、いま、若い親が求めている企画を考えるのが大事だと思いました。今までこうだったからではなく、今、お母さんたちは本当に忙しく、残業もあるんですね。昔はこうだった、が通用しない世の中かと思います。

(委員長) 今何を求められているかも大事ですが、昔の財産をどう伝えていくか。

(副委員長) アミックスをつけたら、企画部部長、移住定住室長、職員が出ていて、人口3～5万の部門で、移住したいまち1位になったそうです。前は8位でした。調査項目を知りたいと思います。

(委員長) 意見ありがとうございます。何を求められているかを集めること、家庭教育学級という言葉が固いので名前を工夫したらどうかという話もありました。後期の柱で進めてもらいますが、各課で具体策を付け加えてもらって、来年4月から始められるようにお願いします。

## 7. その他

- ・ 恵那市人権同和講演会のご案内
- ・ 地域学校協働活動フォーラムのご案内（オンライン開催、文化センター集会室または個人PC）
- ・ 次回 3月21日（木）午後3時～ 防災対策室A・B

来年度から審議するテーマを皆さんと協議したいと思います。社会教育委員会の任務は、社会教育（家庭教育、青少年教育、高齢者教育、人権教育など）は多岐にわたりますので、現代の課題に合わせ、深めてきたいテーマをそれぞれのお立場で持ち寄っていただき、ご意見いただきたいと思います。来年度後半になるかと思いますが、地域学校協働活動の答申がその後どういった成果につながっているか、活用されているか、追っていきたいと思います。場合によっては、推進員さんとの合同の会議が必要かもしれません。

## 8. 閉会あいさつ

(副委員長) 皆様のお知恵と委員長さんのリーダーシップにより本日答申書を提出することができました。4、5年前になるかと思いますが、恵那は自然はあるけれど公園が全然ないと盛んに言われることがありました。今度の議会で質問され、そこで実現されるものもあるかと思い、うれしく思っています。では、次回まで元気で全員そろって会ができるよう願って閉会とさせていただきます。